



授業参観とオンライン学級懇談会



6月2日(水)に本年度2回目の授業参観を行いました。4月の授業参観は2時限目と3時限目でしたが、入れ替えの時間に帰る方と来る方で人が増え、休み時間で子供たちの移動も大きく密になりやすい状況があったため、6月は2時限目と4時限目とさせていただきました。友達と関わりながら学ぶ、学校ならではの子供たちの姿を見ていただくことができたと思います。ただ、授業を公開するとなると、より多くの子に活躍の場を与えたいので、やはり普通の授業に比べてそれなりの準備が必要になります。ご家庭に来客があると、掃除したりお茶やお茶菓子の準備をしたりなど、「気を遣わなくていい」と言われても、気を張るのと同じです。そのため、昨年度から行っている、分散型の複数時間公開は、例年の1時間公開に比べて、準備に時間がかかっていることもご理解いただけるとありがたいです。



夕方にはオンラインによる学級懇談会を行いました。2月に続いて2回目のオンライン懇談会でしたが、少しは慣れていただけたでしょうか。兄弟のおられる方には何度も接続していただかなければならないなど、不都合な面もあるかもしれませんが、場所に縛られないオンラインの良さもあると思いますので、方法の選択肢を増やしておく意味でも機会を見て取り組んでいきたいと思っています。不都合な点がありましたら遠慮なくお知らせいただき、改善できるところは改善していきたいと思っております。

見守りボランティア活動、ありがとうございます



6月7日(月)から11日(金)までの間、附属中学校と合同で、登校時の見守りボランティア活動に、多くの保護者の方々が参加してくださいました。富山駅前や総曲輪バス停、学校周辺の道路等に立っていただいたおかげで、子供たちも普段よりも安心して安全に登校することができました。あいさつの声もいつもより大きくなったように思います。

研究発表会

6月11日(金)には教育研究発表会を開催しました。昨年度はコロナ禍で中止しましたが、今年度は、1授業10名の県内教員限定での開催としました。1年生はもちろん、2年生にとっても初めての研究会でしたが、どの学年の子供たちも普段通り、のびのびと授業に参加していました。参加者は例年に比べて少なかったのですが、それでも県内教職員、教育機関関係で120名あまりの方々が来てくださり、本校の研究の歩みを理解していただくよい機会になったと思います。ご協力いただいた学級役員の方々も、本当にありがとうございました。

知らせる努力、知る努力



平成の初めから令和にかけての約30年間ほどで、学校を取り巻く環境も社会の考え方も変わってきているように思います。

学校にいて、まず感じるのは多忙化です。この期間に新しく始まったことは「生活科」「総合的な学習の時間」「プログラミング学習」「道徳の教科化」「外国語活動や外国語科」「学校評議員制度」等、実にたくさんあります。学校現場はそのたびに、自分が教わってきていないことを子供たちに教えなければならない状況におかれてきました。自分ができるということと、それを人に教えるということはイコールではありません。自分ができることを教えることでさえハードルがあるのに、自分がしたことのないことを教えるには、まず先生自身が教え方を学ぶ研修の場が必要になります。ところが研修会を開こうにも、最近では「働き方改革」の下、早期退勤を求められます。仕事を持ち帰ろうにも、個人情報保護の観点から成績関係のデータの持ち出しも禁止されています。そして直近では「GIGA スクール構想」。現場の準備が十分に整わない中、タブレット端末を積極的に使っていかなければならない状況です。そんな中でも、コロナ対策や翌日の授業の準備、子供同士のトラブル対応は待たなしです。やるべきこと、新しいことはどんどん増えているのに、無くなるものはほとんどないというのがここ最近の学校の現状です。

また、家庭や社会の状況や考え方もだんだん変わってきている気がします。昔に比べて共働き家庭が多くなり、放課後に子供を預かる学童保育の施設も多くなりました。この傾向は長期休業のある幼稚園の多くが、こども園に変わっていることから見ても分かります。そこに少子化も重なって、一人の子供に寄せる期待も、昔より大きくなっている気がします。昔は、子供が家で「先生に怒られた」と言うと、家で重ねて怒られることが多かったようですが、現代では、すぐに学校に問合せの連絡が入ることが多くなった気がします。兄弟が何人もいると、下になるほど、「学校でお世話になっている、学校はいろいろなトラブルがあるのが当たり前でお互いさま」という感覚があったように思います。もちろん、学校では、事故やトラブルが起きないように、細心の配慮はしているつもりですが、なかなかゼロにはなりません。そんな中、最近では「トラブルがないのが当たり前」「我が子に何かあればその責任を追及するのが当然」という風潮になってきているような気がします。

しかし変わらないところもあります。それは、「子供（学校は厳密には「子供たち」ですが）のよりよい成長」を願っていることです。願いは同じという基本に立ち、学校も家庭もお互いに知らせる努力、知る努力を続けていかなければならないと思っています。「うちの子がこんなことを言っているのですが・・・」「うちの子はこんな特徴があるので・・・」というようなことを知らせていただくことで、学校での指導に生かせることも多いと思います。担任が替わった時は校内で引き継ぎをしていますが、成長すると子供も変わります。改めて知らせていただくことで担任との信頼関係もできます。また、学校も学校での様子を学級通信等で伝えたり、気になることがあれば連絡したりする努力を、これからも重ねていかなければならないと考えています。

子供たちのよりよい成長のために、互いに連絡を密にしていきましょう。窓口は原則は学級担任ですが、内容に応じて、学年主任、保健室やスクールカウンセラー、教官室等でも受け付けます。気になることがあれば遠慮なくお知らせください。
(副校長 草野 剛)